

# 消化管の検査について

やさしい治療を心がけています



消化器内科  
**神田 基信**  
かんだ 基のぶ  
平成5年卒  
専門分野：消化管（胃・大腸）  
日本内科学会指導医  
日本内科学会総合内科専門医  
日本内科学会認定内科医  
日本消化器内視鏡学会専門医  
日本消化器病学会専門医

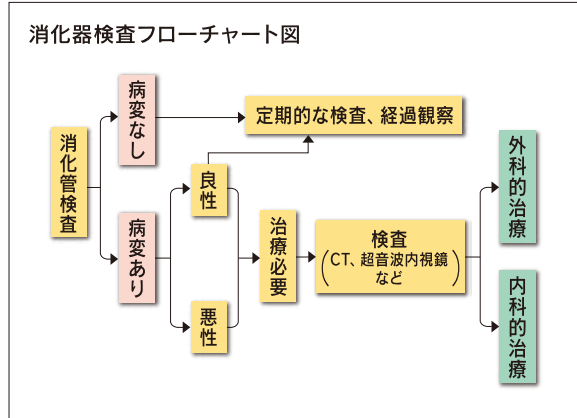
消化管（食道、胃、大腸）の検査にはバリウムを用いたもの（食道透視、胃透視、注腸検査、小腸検査など）、内視鏡を用いたもの（上部、下部消化管内視鏡検査など）があります。以前よりバリウムは飲みにくい、カメラはきついといわれることが多く、できることならやりたくないと考えられる方が多い検査でした。しかし近年テレビでも紹介されているように細いカメラ（約5mm）が開発されており（写真①）鼻から入れることもできます。



（写真①）

施行時の苦痛についても楽になる薬を使用したりしてなるべくきつくならないように、オエッとならないように工夫されてきており、その検査後に休む場所も確保しています。いずれも当院では対応可能ですので安心して相談してください。なおバリウムの検査ではなにか病変があっても良性か悪性か判断できないため、さらに精密検査としての内視鏡検査が必要です。

そのため胃腸の検査が必要というときには最初か



ら内視鏡検査となることが多くなってきています。内視鏡検査は見ながら病変部から一部組織をとって良性、悪性の区別が顕微鏡のできるため、その病気が治療しないといけないものなのかどうか判断できます。また検診で再検査が必要になった場合の相談、検査も可能ですのでご紹介します。

検査で異常（炎症や腫瘍など）があった場合には治療となりますが、内科的治療（薬物治療、内視鏡治療など）、外科的治療（手術など）に分かれます。内視鏡治療はよい点として短期間の入院ですむこと、体に与える影響が少ないことなどが挙げられます。よくない点としてはある程度病気が進行したものには使えないことなどがあります。病気が進行しているのか、していないのかの検査としてCT検査や内視鏡で行うエコー検査（超音波内視鏡検査）などがありますが、最新型のものが当院にありますので詳しい検査が可能です。治療方針は外科と連携し検討を行いますので安心できると思います。その他消化管に関する相談や胃ろうについてのこと、吐血した場合などにも対応ができますのでご連絡ください。

## 消化器科スタッフ紹介

黒瀬 龍彦 （平成5年卒）	日本内科学会総合内科専門医／日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医／日本肝臓学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医／日本消化器内視鏡学会指導医
神田 基信 （平成5年卒）	日本内科学会指導医／日本内科学会総合内科専門医 日本内科学会認定内科医／日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器病学会専門医
柏原 由美 （平成17年卒）	日本内科学会認定内科医

